

【登場人物】

匂宮

浮舟

【場面解説】

幼い頃からの親友でもある薫の想い人・浮舟の君に懸想した匂宮は、薫に内緒で浮舟を自分のものにしようとしています。宇治で薫の訪れを待つばかりの浮舟は、薫を尊敬しつつも、正反対の性格の情熱的な匂宮に惹かれて行きます。やがて浮舟は二人の板挟みとなり追い詰められてゆきます。

現存最古ともいわれる「浮舟」の場面。誰にも邪魔されない場所で二人きりで過ごそうと匂宮は浮舟を連れ出し、対岸の隠れ家に小舟で向かい、宇治川の橋の小島で常緑樹の変わらぬ緑に掛け永遠の愛を誓います。雲の切れ間から覗く有明の月と、水面を照らす月光は、銀泥で描かれ、かつてはキラキラと輝いていました。



【詞書】ことばがき 扇面に書かれている文字

とし経とも

かはらむ物か たら花の

小嶋のさきに

らぎる心は

【現代語訳】

どんなに年が経とうとも変わらぬ常盤木の橋のように、この橋の小島の崎で誓う私のあなたへの心は変わることがありません。

(匂宮から浮舟への和歌)